



EMBAJADA
DE ESPAÑA

OFICINA ECONÓMICA Y
COMERCIAL DE ESPAÑA

TOKIO

2019年 スペイン出版業界レポート

スペイン書籍出版連盟

2021年1月



書籍の国内販売

1989年以来毎年、スペイン出版書籍連盟は、スペインの書籍の国内出版・販売に関する調査を行っている。2020年に実施された第31回目となる2019年の出版業界の変化をみるこの調査から、明らかになった主な数値は、以下の通りである：

出版された新刊タイトル数	82,347タイトル (+8.1%)
紙書籍	60,740 タイトル (+6.6%)
電子書籍	21,607 タイトル (+12.3%)
出版された書籍部数 (重版を含む)	229,515部 (+7.1%)
新刊部数	21,607部 (+12.3%)
平均発行部数 (書籍/1タイトルにつき)	3,779部 (+0.4%)
<hr/>	
国内売り上げ(販売価格)	24億2,064万€ (+2.4%)
電子書籍	1億1,913万€ (+0.1%)
文庫版	9,466万€ (N/A)
販売部数	1億6,285万2,000部 (+0.8%)
国内販売割合	70.7% (2018年 75.1%) 残りは輸出または返本
平均価格	14.15€ (+0.4%)
主要流通経路	書店 (53.4%) インターネット (N/A)

(前年比)

2019年のスペインの出版業界は、発行部数・販売部数共に増やし、成長を記録した。

6年連続の成長を記録し、2019年の売上高は24億2,064万€。すべてのジャンルで売上高の増加がみられている：フィクション(+1.8%)、児童書・青少年向け(+2.9%)、教科書(+3.3%)、ノンフィクション(+1.8%)、コミック、漫画、グラフィックノベル(+0.5%)。

また、電子書籍の売上高は1億1,913万€で、2018年と比較して0.1%の増加。タイトル数は21,607タイトルで、2018年から12.3%の増加。

新刊タイトルは82,347タイトルで前年比8.1%の増加。形態で見ると、紙書籍は60,740タイトル(+6.6%)、電子書籍21,607タイトル(+12.3%)。



平均発行部数はタイトルあたり3,779部で、0.4%の微増。

平均価格は14.15€。

文庫版の売り上げは、出版されたタイトル数、販売冊数ともに増加したことで、9,466万€に達する成長をみせた。

流通経路としては、書籍専門店と書籍チェーン店が改めて主要な流通経路となり、売上の53.4%を占めた。インターネットでの販売も伸びた。

再版も含めた出版部数は前年比7.1%増の229,515部。

タイトル当たりの平均発行部数は2018年とほぼ変わらず（2018年3,762部<2019年3,779部）。

販売部数は前年より増加傾向へ向き、2019年には1億6,285万2,000部が販売され、2018年から0.8%の成長。

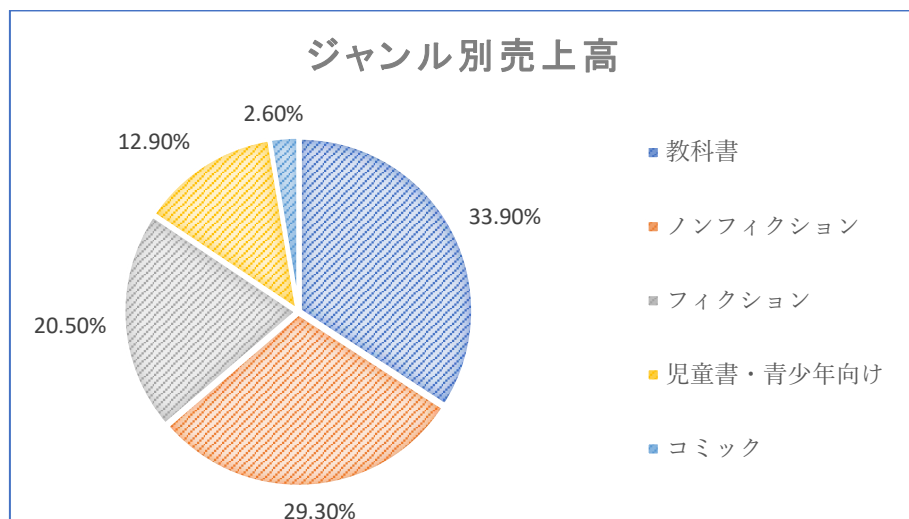
国内販売割合は全体の70.7%（2018年は75.1%）。残りは海外市場への輸出または返本。

国内売上総額は24億2,064万€で、2018年の23億6,390万€と近似値を保っている。

昨年との違いは、今年の平均価格は14.15€で、13.95€に下がった2018年からわずかな上昇をみせた。

ジャンル別売上高:

総売上高をジャンル別にみると、次のような結果となった:





教科書(大学用を除く)及びノンフィクションの2ジャンルで、総売上高の半分以上になる63.2%を占め、下記の4つのジャンルの合計で、総売上高96.6%に達する。

- 教科書(大学用を除く): 33.9%(8億1984万€)、前年比3.3%の伸びで、伸び率は第4位。なかでも14.4%を占める初等教育の教科書の売上高は最大。
- ノンフィクション: 29.3%(7億931万€)。2018年から最大の成長(約+1.8%)をみせた。
- フィクション: 20.5%(4億9678万€)。2018年比+1.8%。
- 児童書・青少年向け: 12.9%(3億1218万€)。2018年比+2.9%。
- コミック: 2.6%(6,299万€)。ほぼ同じ割合。

販路別売上高:

- 書店(8億4359万€)及び書店チェーン店(4億5,100万€)が書籍販売の主な販路であり、2019年は、総売上高の半分をやや上回る53.5%の12億9,459万€を記録した。書店の売上は2018年から約1.4%の増加で、書籍チェーン店は約6.9%の増加。この増加率はインターネットを通じた販売に次ぐ2番目の増加率となった。
- 企業及び団体の購入は3億6,047万€。2018年比1.9%の増加。
- 大型スーパーは1億9,889万€。2.2%の増加。
- 電子書籍の販売は1億1,913万€。前年とほぼ同じ割合(+0.1%)。
- キオスクでの販売は2019年には7,978万€となり、前年比で約-1.3%の減少となった。一番減少額の大きい販売ルート。
- 割賦販売は7,680万€で、約-0.3%。
- 定期購読は6,795万€で、約-0.9%。
- 読書クラブ主催者による購入はほぼ変わらず4,580万€。前年比-0.2%。



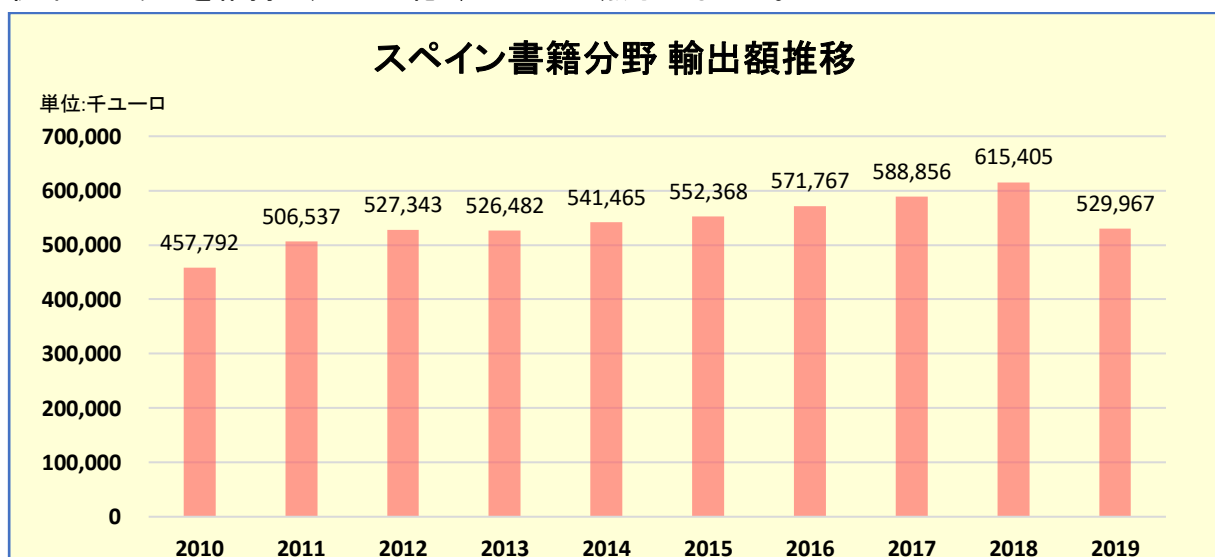
- インターネット販売は成長を続け2,639万€。成長率の最も大きかった販路である（+7.6%）。
- 図書館の購入額は減少しており1,130万€となったが、昨年比では約1.6%の伸び。

文庫版の売り上げは、2016年に一度落ち込んだが、2017年以降は上昇傾向を続けている。2019年の売上高は9,466万€で、前年比で約+1.4%の増加。販売部数は1,272万部で、2018年から約2.6%増。この判型の書籍の平均価格は7.44€で、2018年の価格より9セントほど値下がりしている。また、文庫版として出版されるタイトル数も増加し（約2.2%）、4,766タイトルが出版されている。

スペイン書籍の貿易

スペイン書籍委員会連合（Asociación de las Cámaras del Libro de España）は2020年、第28回書籍貿易調査を実施した。これにより、海外市場におけるスペイン語文化のプレゼンスにおいて、書籍一般、また、特にその出版社の重要性を見ることができる。スペイン経済における出版業は、最も国際化が進んでいるセクターのひとつであり、その集約度と長年にわたる功績の大きさはよく知られている。

2019年はやや異例の年であった。輸出は好調なスタートとはいえ、また下半期には主要な市場であるアメリカの貿易停滞が顕著になるなかで、ゆっくりと、しかしながら継続した修正がなされた。輸出額は5億2,900万€に達したが、2018年との比較で減少。一方、輸入は中国への印刷発注が増加していることを受けて2018年よりも増加した。貿易収支としては、従来のプラスを維持し、ほぼ3億1,200万€の黒字となった。



出典: FEDECALI (スペイン書籍委員会連合会カタルーニャ州、バスク州、マドリッド州部会)



輸出額は減少したが、スペインの出版社の様々な努力により、多くの市場で書籍の平均価格が下がっていることにも注目したい。

出版社の著作権契約に関しては、7,000万～7,100万€で安定しており、契約の成立が最も多かった言語は英語であった。

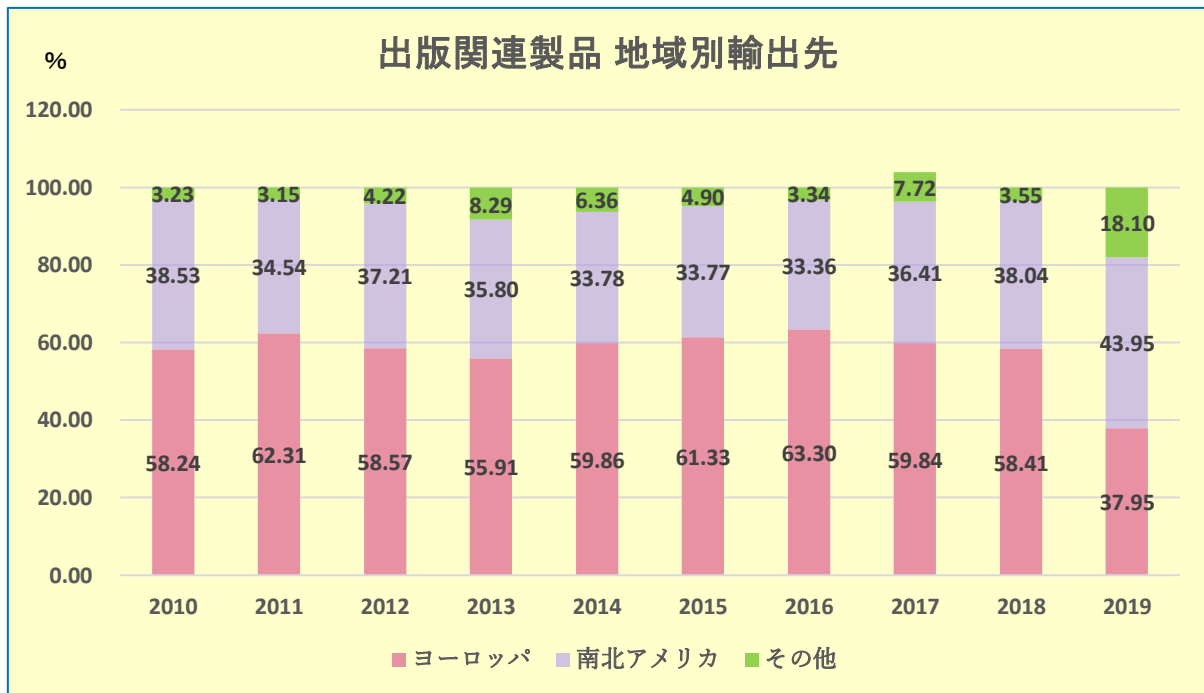
第28回書籍貿易調査の概要は次のとおり：

- 書籍の輸出は直近の3年で初めて減少。
- 書籍の輸入は約24.86%増加している。中国への印刷発注の増加による。
- 上記2点にもかかわらず、スペインの書籍業界の貿易は活発といえ、結果としての貿易収支は3億1,197万4,000€の高い黒字を維持した。
- 出版関連製品の輸出企業にとって、アメリカは中枢的な市場であり続けている。
- 輸出減少の要因は、ラテンアメリカに影響を与えた世界貿易の減速によって引き起こされたものである。その急激な減少の一因としてアルゼンチンを例に挙げるなら、目覚ましい成果を上げた2018年以降、政権交代による全体的な先行き不安と経済危機に陥っている。
- EU諸国は再びスペインの出版業界にとっての要所となった。1位はグラフィック本、2位は書籍等の出版物。
- コレクション商品およびキオスク商品（新聞雑誌等）の輸出で、売上高が28.39%増加。
- 外国人向けのスペイン語教材の輸出は堅調。業界の実施した重点的プロモーション活動は効果をあげている。
- 北米はスペインの書籍にとって、主要な市場の1つとしての地位を保持している。この市場への直接輸出の数字が過去10年間でかなり減少したことは否めないが、スペインの出版企業はラテンアメリカ諸国からの出荷と中国からの間接輸出を通じてこの市場でのプレゼンスを高めている。

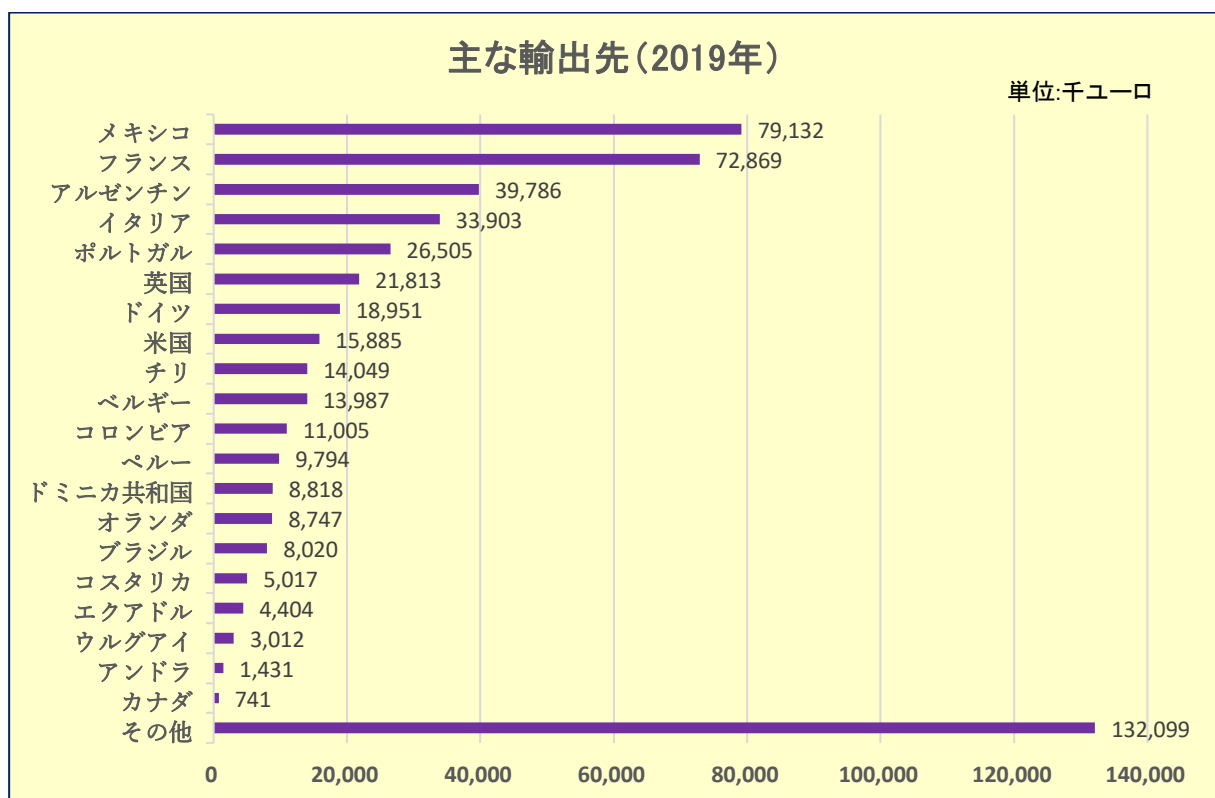
2019年の書籍出版物の輸出は3億5,479万€に達した。そのうち、3億3,421万€(94.2%)はスペインの出版社からの直接輸出またはグループに属する取次・流通業者によるもの。残りの2,058万€(5.8%)は独立した取次業者または書籍販売人による。



【参考】



出典: FEDECALI (スペイン書籍委員会連合会カタルーニャ州、バスク州、マドリッド州部会)



出典: FEDECALI (スペイン書籍委員会連合会カタルーニャ州、バスク州、マドリッド州部会)



読書・出版物購入に関する行動様式(2020年)

スペイン書籍出版連盟は「読書・出版物購入に関する行動様式」の調査を毎年行っているが、2020年の場合、特にスペイン人の読書傾向の調査に主眼を置いた。結論として先ずいえることは、読者人口は継続した上昇傾向にあるが、2020年の新型コロナウイルス感染防止による外出制限によって、今まで以上に読書を習慣とする人の数の増加が顕著になった。14歳以上のスペイン人の68.8%が読書を習慣としており、約64.0%のスペイン人は趣味あるいは自由時間の過ごし方として読書をし、約23.1%は仕事や勉強のための読書をしている。

読者層

- 14歳以上の読者の割合は95.7%(3か月のうちに少なくとも1回、何らかの形態・媒体で出版物読んでいる人口)。
- 出版物を読む人口の割合は増加傾向にある。雑誌の読者は減少しているが、新聞の読者は増加し、またSNS、ウェブサイト、ブログ、フォーラムの読者も増加。
- 男性には新聞、SNS、ウェブサイト、ブログ、フォーラムの読者が多く、女性には雑誌読者が多い。また、女性はSNSの熱心な読者でもある。
- 雑誌を除き、どのような形態・媒体でも、55歳を過ぎると読者人口の割合は減少する。
- 何を読むかの種類には関係なく、最終学歴と読者人口割合には直接的な関係がみられた。
- 読書する人の96.8%の読書行動は頻回である(毎週)。
- 国民の57.2%が頻繁に読書をする人である。
- 14歳以上の読書を習慣にしている人の99.7%がスペイン語で読書をし、21.0%は英語で、20.6%はカタルーニャ語でもよく読む。読書をする人の約46.1%は、習慣的または時々2種類以上の言語で読書をする。
- 64.0%の人が自由な時間に趣味として読書をする、高齢になるにつれ、仕事や勉強のために読書をする人の割合は下がる(23.1%)。趣味で読書をする割合は女性に多く、男性は仕事や勉強のために読書をする。



趣味としての読書

自由な時間に読書をする人の割合は増加傾向にあり64.0%に達した。その大部分(82.3%)が頻繁に読書をする人であり、増加傾向にある。これは、毎日あるいはほぼ毎日読書をする人が増えていることによる。

- 国民の約36%がまったく読書をしない人であるが、近年、これは減少傾向にある。
- 趣味で読書をする人の比率が平均以上に高い自治州は、マドリード州、バスク州、ナバラ州、カタルーニャ州、リオハ州、アラゴン州。逆に平均を下回る自治州は、従来どおりエストレマドゥーラ州、カナリア州、アンダルシア州。すべての自治州で、自由な時間に趣味で読書をする人の割合は増加している。
- 時々読書をする/まったく読書をしない人に理由を聞いたところ、「時間が足りない」ことが主たる回答であったが、「読書は好きでない」と回答している人も約30%いた。
- 73.6%の人が、直近に読んだ本として小説・物語を挙げている(文学)。
- 2人に1人の割合で、読書は紙(ざら紙を使用した装丁)の本、約32.8%が文庫版、18.0%が電子書籍で読書をしている。

デジタル媒体の普及

- デジタル媒体を使った読書は増加傾向にある。14歳以上の回答者のうち、82.1%が電子デバイスでの読書をしており、最近10年で、この形態での読書は34.3%増加した。
- デジタル媒体を使って読書する人のほぼ全員(80.1%)が、週に1回以上の頻度でこの方法で読書している。
- 書籍、新聞、SNSやウェブサイト、ブログやフォーラムなど、デジタル媒体での読書が増加している。しかしながら、この増加が、総読書量と平行に増加しているとはいえず、紙媒体の出版物とは別に、デジタル媒体による読書が増加していることを示している。
- スマートフォンはデジタル媒体での読書に最も広く使われているデバイスである。このデバイスの利用は今年もまた増加し、70.3%に達した。
- 読書のための専用端末(E-Reader)は、主に書籍を読むために使われる。



- 14歳以上の国民の30.3%が、3か月に1回以上、デジタル媒体の書籍を読んでいる。電子書籍の入手方法は、引き続き「無料ダウンロード」が最も多いが、回答者のうち「お金を払って購入する」と答えた者は増加する傾向を続けている(39.8%)。「友人・親戚からのプレゼント」と回答した者の割合は変化しなかった(43.7%)。
- 趣味で読書する人64.0%のうち、約34.3%は紙媒体のみ、約20.8%は紙媒体と電子書籍の両方、約8.9%は電子書籍のみを利用している。
- デジタル媒体のみでの読書をする人のプロフィールをみると、紙媒体でしか読まない人よりも年間に購入して読む冊数が多く、書籍以外にも、新聞、SNS、ウェブサイト、ブログ、フォーラムなどを読む分量も多い。年齢層は若く、学歴も高い。

購入の様式

- 14歳以上のスペイン人の64.2%が、過去12ヶ月間に本を買ったことがあると回答している。この間に前年比で購入者数は増加したものの(2019年62.6%<2020年64.2%)、平均購入冊数は減少した(2019年11.5冊>2020年9.7冊)。
- 教科書・参考書以外の書籍の購入は増加傾向が続き、2020年には51.7%に達し、昨年の平均購入冊数は8.3冊(2019年は8.4冊)となった。これらの書籍の主な購入ルートは従来通りの書店であることに変わりはないが、オンラインでの販売も成長を続けており、2020年には24.6%に達した。
- 教科書・参考書を購入する者の割合は31.9%とわずかに減少し、平均購入冊数も7.8冊に減少した。教科書・参考書を購入するルートとしては、依然として「書店」が圧倒的に多い(55.5%)。

図書館の利用

- 過去1年間に図書館に行ったことがあると回答した者は23.2%であった。2020年は図書館への来館者数が減少したが、パンデミックの影響を考えると予想通りともいえる。
- 図書館の評価は「良い」を維持しており、昨年と同じスコアの10点満点中8.3点の評価を得た。

幼児期の読書(9歳まで)

- 6歳未満の子どもがいる世帯では、読み聞かせをする割合が2018年と同様に低下しているが、読み聞かせに使う時間は前年に比べて平均20分以上増加している。



- 教科書を除いた本を読む6歳から9歳の子どもは88.8%で、前年よりわずかに増加した。この設問での平均読書時間に変化はみられなかった。

思春期の読書(10~18歳)

思春期の読者層をみると、15歳未満が日常的に読書をしている年代層で、15歳から18歳の読者層に比べて、ウェブページやSNS上の長文、コミックの読者数が最も多い。自由な時間に本をよく読む人の割合は10歳から14歳までの層では79.8%、15歳から18歳までは50.3%と大幅に減少する。

実質的にすべてのティーンエイジャー(15歳から18歳)は、デジタルメディア上で何らかのコンテンツを読んでおり、そのほとんどがウェブサイトやSNS上のもの。一方でこの年齢層の19.0%が、趣味として電子書籍を読んでいる。

外出制限期間中の本と読書の果たした役割

2020年3月から6月までの期間、スペイン国内で取られた新型コロナウイルス感染防止対策としての厳しい外出制限期間中、頻繁に読書をする人の数は国民の57%にまで増え、読書時間も前年に比べ平均で90分伸びた。女性と35歳以下の年齢層がこの期間を利用して以前よりも読書に費やす時間を増やした。回答者のうち82%が外出制限期間中に本を読むことが娯楽となり、精神的安定、リラックス効果、ポジティブな気分、喜びを得ることができ、自分のためになったと回答している。